

例会記録

日本医史学会・日本歯科医史学会・日本薬史学会・
日本獣医史学会・日本看護歴史学会合同 12 月例会

平成 22 年 12 月 11 日（土）

順天堂大学医学部 9 号館 2 階 8 番教室

1. 日本独自の本草学の誕生について

W・ミヒェル

2. 歯科医史教育カリキュラムプランニングの試み

石井拓男

3. 大阪・道修町の製薬産業史の一端

——イノベーション・セレンディピティの

視点から——

松本和男

4. 牛海綿状脳症（BSE）発生の経緯と対策

小野寺節

5. 看護歴史研究におけるプランゲ文庫の意義

大石杉乃

日本医史学会 1 月例会 平成 23 年 1 月 22 日（土）

順天堂大学医学部 8 号館 1 階 3 番教室

1. 戦争のなかの精神障害者

岡田靖雄

2. イギリスにおける一般医（GP）と病院の距離

——技術システムとしてみた NHS の 60 年——

上林茂暢

例会抄録

ライデンのシーボルト旧蔵の鍼灸関係資料について

ヴィグル・マティアス

はじめに

今年 8 月、二松学舎大学の准教授町泉寿郎と一緒に、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトが日本から持って帰った鍼灸関係資料の調査を目的として、ライデン大学図書館および国立民族博物館において研究調査を行った。ライデン大学の図書館に所蔵されているシーボルトコレクションの東洋医学関係資料の中で、鍼灸関係の文献、特に石坂宗哲とシーボルトとの豊かな交流を表す石坂宗哲の文献は多く、特別な位置を持っている。

従来のシーボルト研究において石坂宗哲とシーボルトの交流、石坂宗哲の鍼灸関係資料に関する研究などがなかったわけではない。周知の通り、呉秀三の『シーボルト先生其生涯及功業』（1926）、『施福多先生文献聚影』（1936）の第 7 冊を含む「灸法略説」の大鳥蘭三郎の解説、日独文化協会の『シーボルト研究』（1979）などの先行研究がある。

しかし、これらの先行研究の問題点はライデン大学とベルリン日本学会に所蔵されている資料を参照してなく、石坂宗哲がシーボルトに伝わった資料、シーボルトの門人によって書かれた論文、シーボルトが書いた論文の比較対照調査も十分行われていない点にあると考え、この不十分点を明らかにするため、今回の調査を行った。

ライデン所在のシーボルト旧蔵の鍼灸関係文献

シーボルトは帰途のバタヴィアで雇ってオランダへ連れてきた中国人の郭成章と、言語学者であるヨーゼフ・ホフマン助手の協力を得えながら、もとの出島商館長ヨハン・コック・ブロムホフと、同副館長ファン・オーフ・フェルメール・フィッシャーの収集文献を加え、1845 年に日本から持って帰った日本図書の目録を編集した。603 タイトルを含むこの目録を部門別すると、医学書